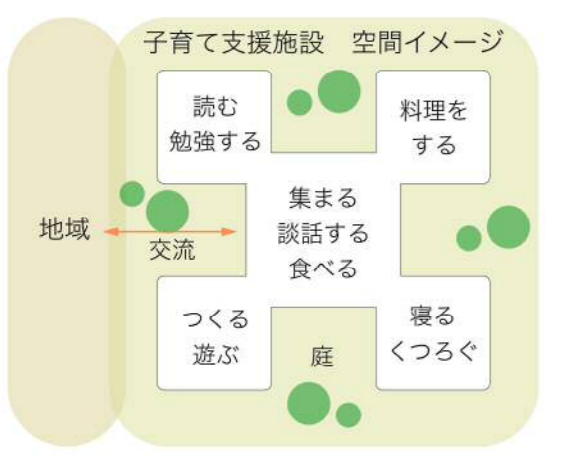


八幡浜市保内総合児童センターデザイン設計競技
段々大屋根のみんなの家



それぞれの育ちを大切に支援する場所

少子化や核家族化、共働きの増加や一人親等の社会状況の中で子どもや子育て中の親が孤立化しないために、いつでも気軽に訪れることができ、迎えてくれる人と話したり、ゆったりと安心して過ごせるような場所、子どもたちがのびのびと遊び、異年齢の中で育ち合う場所が必要です。本計画では、個々がそれぞれの活動に専念でき、自然と交流ができる「もう一つの家のような場所」をつくり、街に開くことで地域全体で見守り、子育てを支援する空間づくりを行います。



みんなで過ごす場所を中心に個々のスペースを周りに置き、間に庭をつくります。中心にある交流スペースから全体を見通すことができ、子どもを見守り、支援しやすい空間です。

八幡浜の重要文化材に学び、現在の風景へと引き継ぐ

■八幡浜の原風景に沿う「段々のかたち」
八幡浜らしさの一つ「みかんの段畑」の山並みに沿った屋根をつくり、親しみやすい形で風景に馴染みます。



緩勾配の屋根を分割し、中まで明るく風通しのよい内部をつくります。

■古きを学び新しいかたちへ

各施設共に木造平屋とすることで子どもが自由に活動できるスペースを広げ、避難、管理、利用面を向上します。内部は構造部を現しにし、旧川之内小学校や日土小学校のような、見て触れてぬくもりのある施設とします。空間の中心まで明るい内部とするために高窓による採光方法を引き継ぎます。



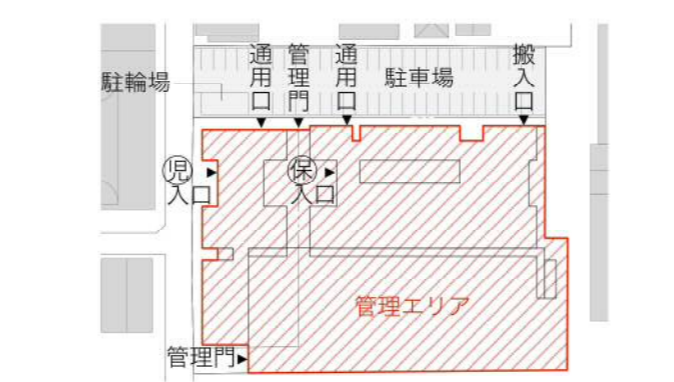
■公共の顔と安心をつくるL型の配置

道路側は、ゆめみかに沿うように児童センターを南北方向に伸ばして配置し、街に開かれた利用しやすい施設の顔を整えます。保育所は「子どもの生活の場=安心感」を重視し、児童センターと園庭をL型に囲んで東西方向に伸ばして配置します。北側住宅地が近接しているため、施設からの音漏れや、採光・通風に配慮し、駐車場を北側に配置します。



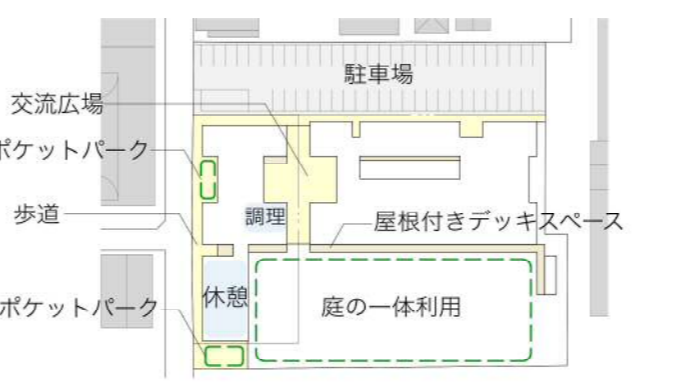
利用しやすく、交流しやすい魅力ある内外空間

■明快なゾーニングで安心安全な運営管理
児童センターは道路側の入口で入館者を管理し、保育所はオートロック式の管理門で入園者を管理します(送迎時は開門)。駐車場から各入口への導線を短くして運営側と利用者側双方の利便性を高めます。



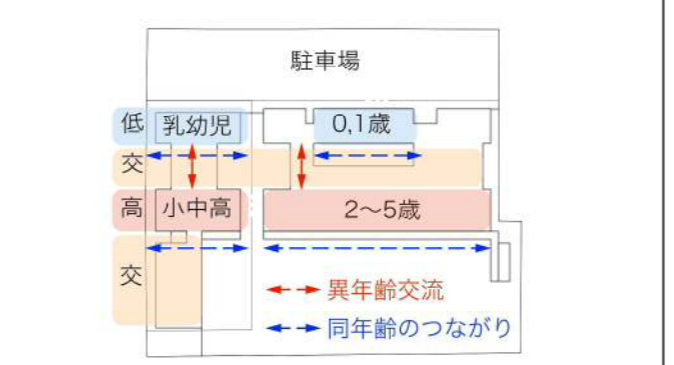
■建物の凸凹が生む豊かな交流空間

運動会時は屋根付きのデッキスペースを観覧席にし、体育室を休憩室として利用できます。二施設間の交流広場はイベント時に共同利用し、調理室との行き来が可能です。道路側は歩道を整備し、歩道とつながるポケットパークを地域に開かれた憩いの場とします。



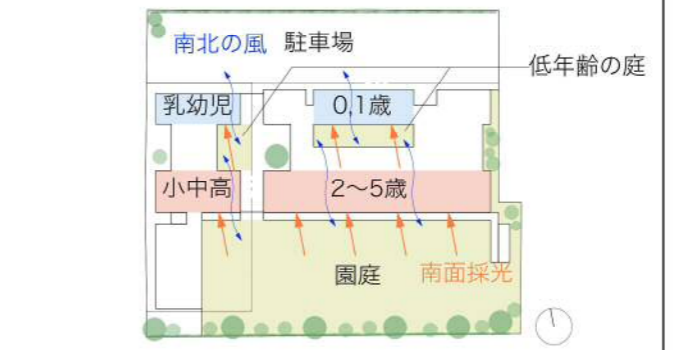
■年齢別の専用スペースと交流スペース

子どもの年齢に合った活動や生活ができるように低年齢と高年齢のゾーンに分け、東西方向で同年齢のスペースをひとまとめにします。各スペースから交流スペースに出やすく、異年齢交流が無理なくできるゾーニングです。



■年齢ごとの外部空間

各年齢の外遊びに合わせて低年齢の庭は大人が目が行き届く落ち着いた中庭型とし、高年齢の庭は活動的な開放型とします。施設を中心に庭を配置することで安定した採光が得られ、風通しの良い内部環境を整えます。敷地周囲は植栽を適所に配置し、安全面と景観の両方を調整し、緑豊かな施設とします。



段々大屋根の空間と環境の効果

■段々大屋根がつくる多様な天井高さ
交流したり体を動かすスペースの天井高さは5~6m、その他は2.4~4.5mと様々な天井高さの空間を用意することで、時間や場所によって内部の明るさや温度が変わり、施設の中が均一な印象にならず、長い時間を過ごす中で大人と子どもの両方が気持ちよく過ごせる空間です。

■段々大屋根がつくる環境システム

大きな庇は日射を遮り、広い屋根は雨水を集め、夏期は屋根散水に利用して屋根の熱負荷を削減し、年間を通して庭の植栽散水に利用します。屋根面が大きいので、太陽光発電パネルや太陽熱温水器の設置検討が可能です。

省コストとサステナビリティ

■コスト削減の工夫・柔軟な空間づくり

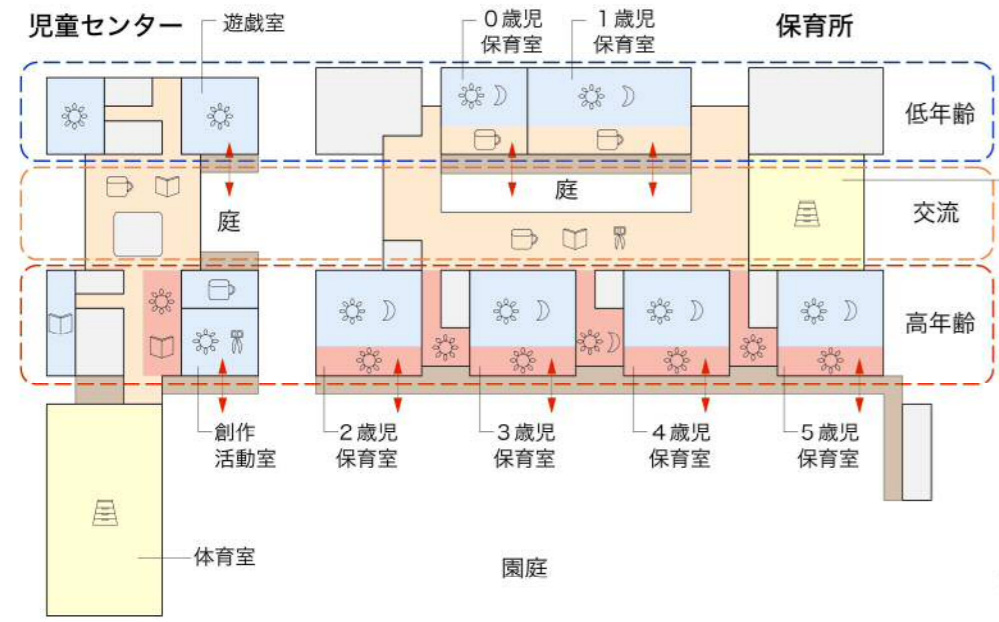
標準的建築工法である木造在来工法を採用し、構造材や仕上げ材に県産材を使用することで建築費を抑えます。軟弱地盤への対応として、木造平屋にすることで平米辺りの荷重を低減し、地盤への負担を軽減して基礎工事を省コスト化します。又、自然エネルギー(太陽、風、雨)を十分に生かすことで省エネルギー化し、継続的運営費を抑えます。平面計画は大らかで柔軟なプランとします。個々のスペースが他のスペースとつながることで多様な利用が可能となり、利用者の様々な要望や将来的なプログラムの変化に応える事ができる空間づくりを行います。

平面計画 年齢や活動別にスペースを分けた明快で自由度の高い平面計画で子どもの「自主性」と「創造性」を育てる

本計画は様々な年齢の子どもたちが無理なく個々の活動や生活ができるように、低年齢のスペースは落ち着いた北側に、高年齢のスペースは活動的な南側に配置しています。東西方向は同年齢のつながりを重視し、施設を中心に全体の見守りを兼ねた交流スペースを配置しています。各専用スペースは庭とデッキテラスに面して内外の行き来を楽にし、南面採光としています。

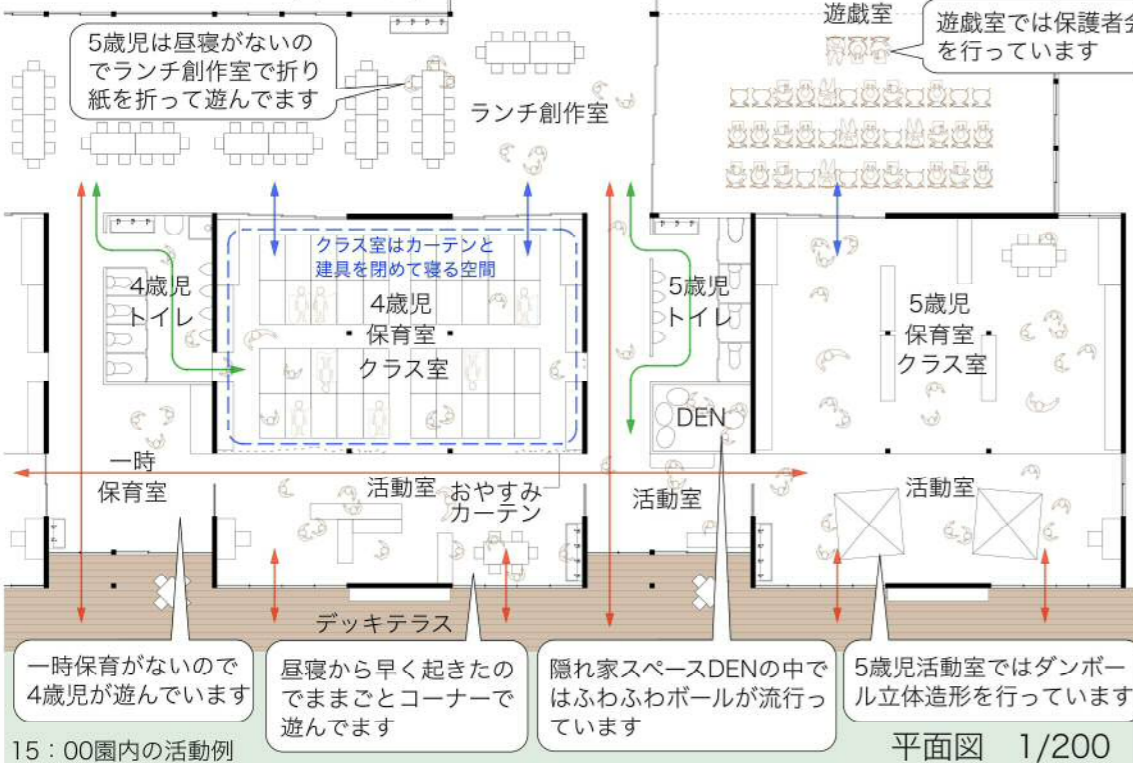


凡例



保育室の特徴

2歳～5歳児の保育室は、遊びと昼寝をするクラス室と、異年齢がつながる活動室で構成しています。ランチとおやつはランチ創作室で食べます。



平面図 1/200

児童センター諸室について

集会室

24畳の和室は、マタニティヨガやベビーマッサージ、児童と地域住民との交流会（お茶会）の他、親子集会や休憩等に幅広く活用できます。

遊戯室（幼児室）

立体遊具やボールプール等の幼児専用のおもちゃで遊べます。絵本の読み聞かせを行う幼児専用図書コーナーがあり床に座って親子でゆっくり本が読めます。

調理室

離乳食教室や児童向けの料理教室、交流広場での行事の調理に使用できます。あそび庭や多目的ラウンジ、創作活動室とつながり活動の範囲が広がります。

創作活動室

工作教室やボランティア室として使用する他、遊戯小上がりとして使用する他、遊戯小上がりスペースとつながり、小学生の遊び場所や宿題スペースになります。

図書室（自習室）

小中高生の本を置き、時間や曜日を決めて中高生専用の読書・自習スペースとして活用します。

体育室

天井高さが約6mあり、ミニバスケや卓球、跳び箱ができて幼児から年長児童まで庭を見ながら気持ちよく運動が楽しめる空間です。

遊戯小上がりスペース

通路から40cm上がっており座ったり、寝そべったりして自由に遊べるスペースです。将棋やボードゲームができる低いテーブルを置きます。



保育所諸室について

調理室

ランチ創作室への配膳がしやすく遊戯室からガラス越しに調理の様子が見えます。

遊戯室

天井高さが約5mあり、式典ではランチ創作室と一体利用ができる開放的な遊戯空間です。

ランチ創作室

ランチやおやつを食べたり工作ができ、常時機が使えます。天井高さが約5mあり、大人と子どもが大勢で集まることができる異年齢交流空間です。

保育室（0歳、1歳）

乳幼児の庭に面していて気軽に外遊びができます。ガラス戸を開けるとランチ創作室とつながり、異年齢交流ができます。

保育室（2歳～5歳）

クラス室と活動室で1クラスの保育室を構成し、20cmの段差によって緩くスペースを分けています。クラス室は昼寝時はカーテンと建具を閉めると落ち着いた空間となり、活動室は家具を置いて遊びが固定できるコーナー保育等に使用できます。

トイレ

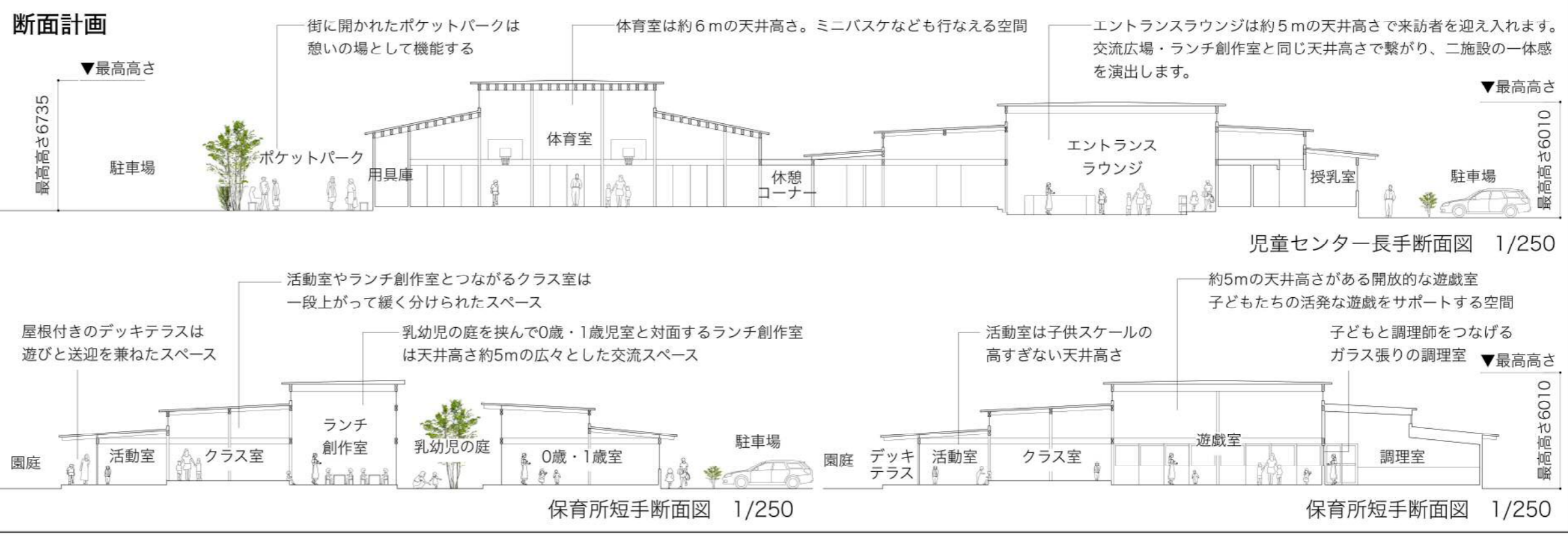
2歳～5歳児のトイレはクラス室と活動室等から共同利用できます。

平面図 1/300



体育室 格子建具とサッシの二重建具で体育室の換気と採光を確保します

児童センター内部パース



児童センター長手断面図 1/250

保育所短手断面図 1/250

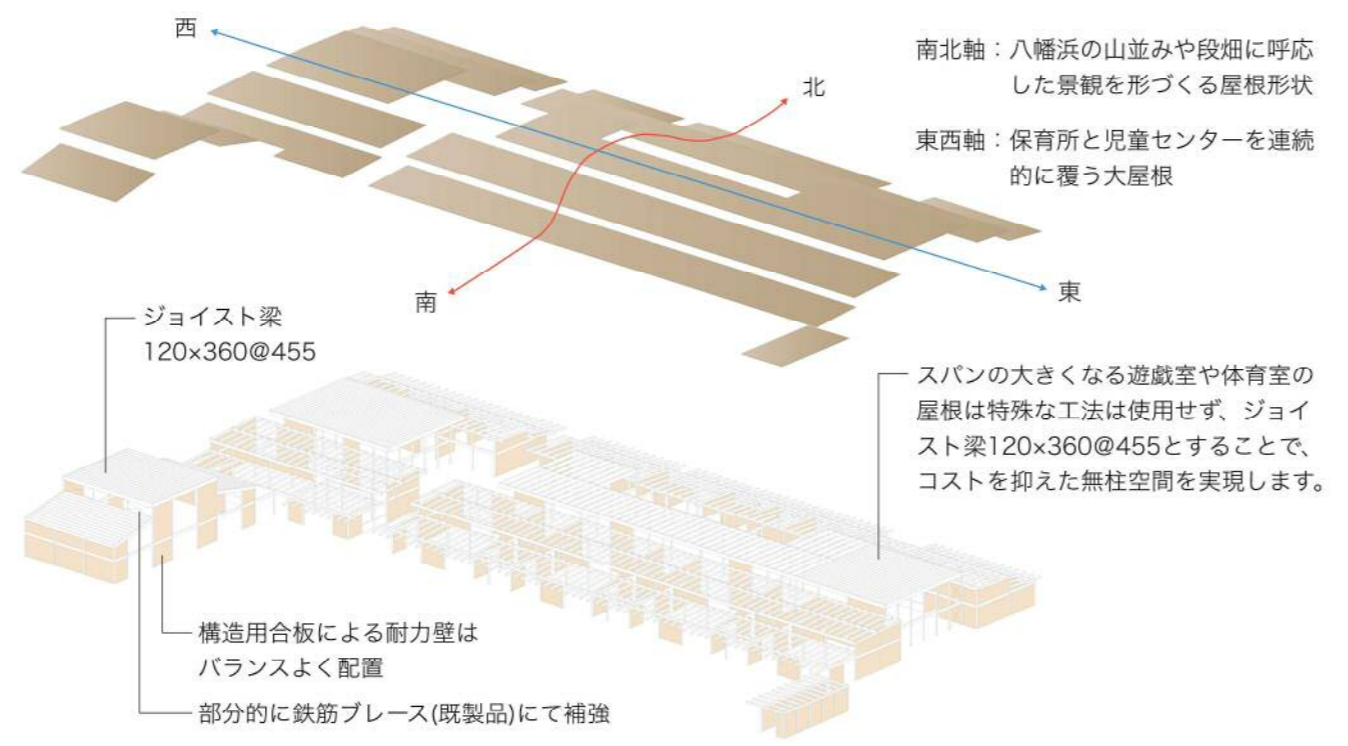
保育所短手断面図 1/250

面積表

児童センター	敷地面積	建築面積	延床面積
児童センター	2694.25㎡	712.16㎡	693.94㎡
諸室面積			
集会室（幼児室）	39.74㎡	52.99㎡	52.99㎡
遊戯室（幼児室）	52.99㎡	27.32㎡	27.32㎡
図書室（自習室）	27.32㎡	33.12㎡	33.12㎡
調理室	33.12㎡	39.74㎡	39.74㎡
創作活動室	39.74㎡	198.74㎡	198.74㎡
体育室	198.74㎡	26.06㎡	26.06㎡
遊戯小上がりスペース	26.06㎡	19.38㎡	19.38㎡
事務スペース	19.38㎡	101.18㎡	101.18㎡
エントランス、多目的ラウンジ	101.18㎡		
保育所	敷地面積	建築面積	延床面積
保育所	3891.86㎡	1399.82㎡	1342.19㎡
諸室面積			
0歳児保育室	55.48㎡	118.41㎡	118.41㎡
1歳児保育室	118.41㎡	100.20㎡	100.20㎡
2歳児保育室	100.20㎡	100.20㎡	100.20㎡
3歳児保育室	100.20㎡	100.20㎡	100.20㎡
4歳児保育室	100.20㎡	100.20㎡	100.20㎡
5歳児保育室	100.20㎡	100.20㎡	100.20㎡
一時保育室	20.70㎡	119.24㎡	119.24㎡
遊戯室	119.24㎡	188.47㎡	188.47㎡
ランチ創作室	188.47㎡	45.54㎡	45.54㎡
職員室、医務室	45.54㎡	91.92㎡	91.92㎡
調理関係室	91.92㎡		

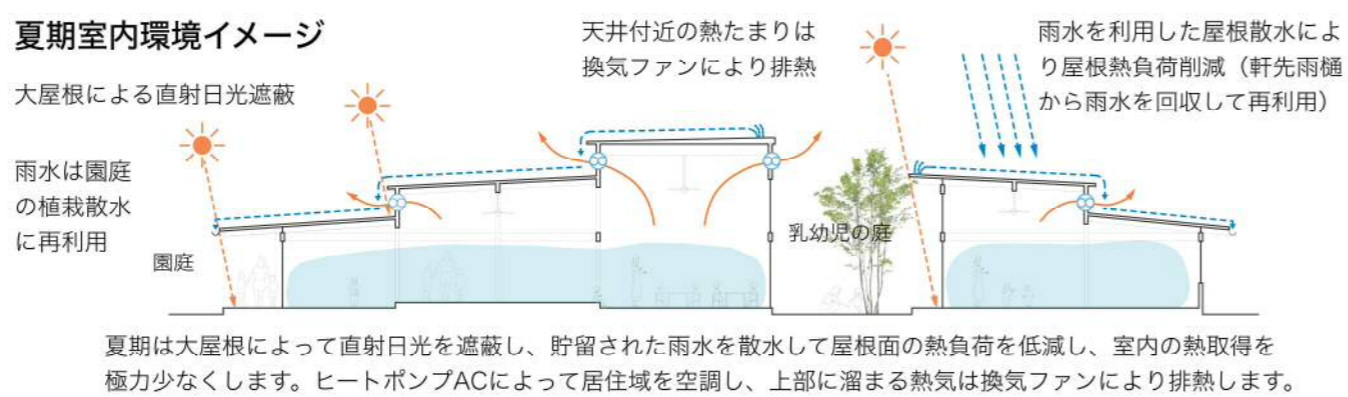
構造計画

構造計画は環境性能とコストを考慮して木造在来工法を採用します。地震力や台風風の風圧力に対して十分に配慮し、バランス良く耐力壁を配置します。木軸架構材は、愛媛県一般流通規格材を積極的に活用し、コストを抑え安全で合理的な構造計画とします。屋根形状は、南北方向は八幡浜の風景に呼応した段々状の形とし、東西方向は保育所と児童センターを連続的に覆う大屋根とすることで統一感のある景観となります。基礎工法はベタ基礎+柱状地盤改良工法とし、省コストと近隣への騒音や振動に配慮します。



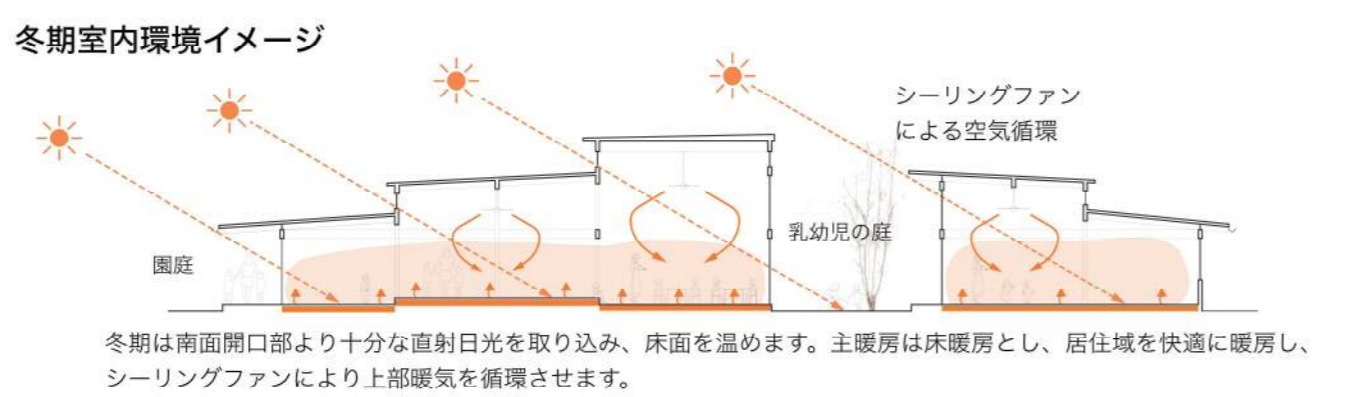
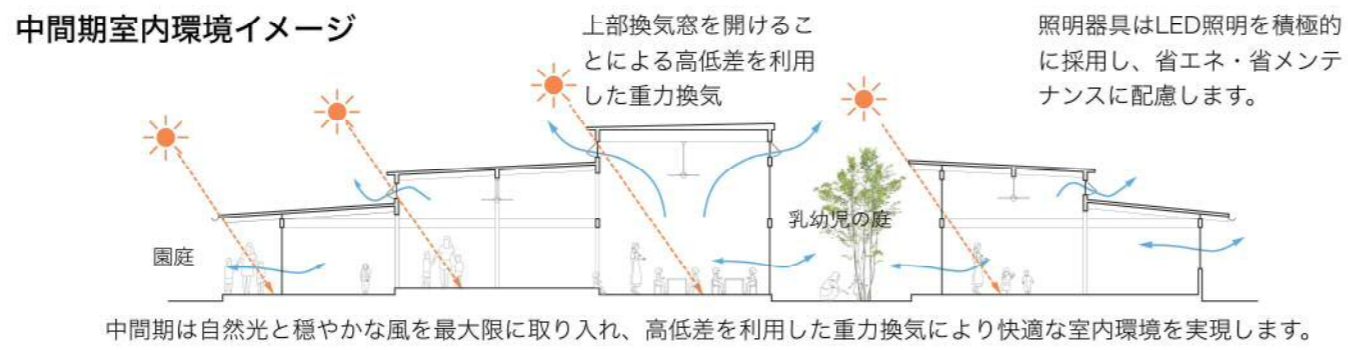
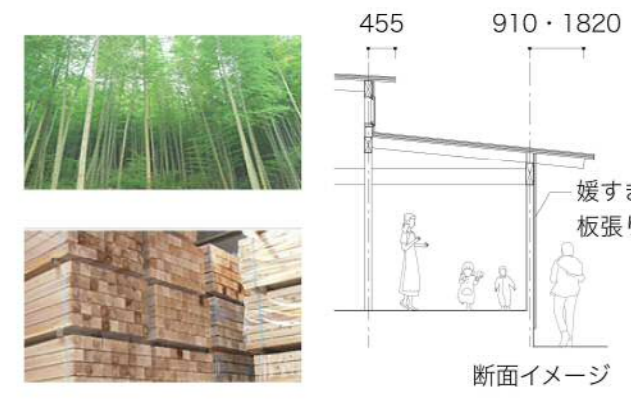
設備計画

設備計画は、段々大屋根の形状を最大限に活用し、八幡浜に豊富な自然資源(太陽、風、雨)を積極的に利用したパッシブデザインとし、ランニングコストを低減しながら、快適な室内環境を実現します。設備機器は、汎用設備機器を採用することでメンテナンス性を向上します。



外装計画

外壁には、愛媛県産材である「媛すぎ」を使用し、親しみやすく、優しい外観をつくり出します。十分に設けられた軒や庇によって外壁材の劣化を抑制し、省メンテナンス性に配慮します。



内装計画

内装計画は、木造平屋という特徴を生かして構造軸組を現しとします。壁や床材には温かみや親しみやすさを感じる木質材料を積極的に利用しながら省メンテナンス性に配慮します。天井は吸音材パネルとし、音の反響を抑え、水廻りは床や壁の一部にタイルを使用し、清潔感と清掃しやすさを重視します。

色彩計画

内部は木の自然な色合いと天井の白を基本にした清潔感のある温かなイメージとし、トイレと隠れ家スペース/DENには、日土小学校に使用されているやさしい色彩を加えます。年齢ごとに色を塗り分けることで識別がしやすく、空間にリズムを与えます。使用する色彩や配色はワークショップ等を通じて決定していきます。



空間計画 ~全体がつながりながらそれぞれの活動を大切にしたい空間づくり~

